

# ふく福便り(緩和ケア病棟新聞) 第2号

## 終末期栄養管理って？

日本緩和医療学会の輸液に関するガイドラインでは、終末期の輸液の制限を示しているが、なぜ良いのでしょうか？各病態についての各論は抜きにして、輸液制限で人の体に何が起きているのかをお話します。

日本では、脱水や低栄養は終末期患者にとって悪いことと捉えられていました。しかし、諸外国では逆です。

脱水になると、脳内麻薬でもあるβ-エンドルフィンが分泌され、気分が良くなります。マラソン時のランナーズ・ハイも、このホルモンが分泌されます。また、低栄養になると、栄養源として自分の脂肪が使われるため、血中のケトン体が増加して意識が朦朧としてきます。これで、除々に傾眠となり優しい最後を迎えられるのです。

終末期に点滴や栄養管理を積極的に行った場合、この恩恵を受けられずに苦しまれることが多くなります。

(緩和ケア病棟医師 沖政)

次回イベントは

「端午の節句～カーフ祭り」

5月11日(水)15時から行います！

皆様のご参加お待ちしております！

4月の桜祭りはたくさんの方に参加して

頂きありがとうございました。

患者様にもたくさんの笑顔を頂きました！



## 担当者のつぶやき...

看取りの時期が近いと思われる患者様の家族に退院時の装いの確認をします。家族の方は一生懸命考えられます。

韓国籍の女性の患者様の2人の娘さんは、姉妹の結婚式に着た薄いピンクとグレーの生地に綺麗な刺繍が施されたチマチョゴリを選ばれました。亡くなった後にメイクを施し、チマチョゴリに着替えた姿はため息が出るほどとても綺麗でした。感動したスタッフは交代でお部屋に伺い、そのお姿を拝見させていただきました。

また、60代男性のご家族は誕生日のプレゼントに買って一度も着ることが出来なかったチェックのシャツとジーンズ、お気に入りのバンダナを選ばれました。家族全員で思い出を語りながら、泣き笑いのエンゼルケア後、息子さんは髭剃りを親父の形見と丁寧に持って帰られました。家族の歩みをかいまみ、お別れは辛いですがたくさんの感動を頂いています。

(編集担当: 寺本・嶋・谷)